

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書9章21-27節＞

文脈を考えて読む時に見えて来る深い内容。ルカ独特の魅力ある箇所。

1 (21-22) なぜ語るなど命じられた？ 神の必然：ことになっている。

ここで「～ことになっている」(22)は、神様がそうすると決めておられることを示す単語が使われています(神の必然:must)。私たち人間の理解を超えている神様の出来事、しかも破格の恵みの出来事、それが主イエスの十字架の死と復活の出来事です。弟子たちがイエス様への信仰告白をしたので、イエス様は弟子たちにこれから起こることを初めて予告されました。それは弟子たちにはまだ理解できないことでした(9:43b以下)。理解できないけれど、イエス様を信頼しているから受けとめ、進み続ける。信仰が一步深まったことを示す内容です。イエス様を知る中でその方(神様)の望むことを知り、それに従って行動することを知って行く。旧約聖書の「知る：ヤダー」と一致します(イザヤ書1:3)。

2 (23以下1) ペトロの諫めがない。大事なことに焦点を絞ったルカ。

ルカはペトロがこの予告を話すなどイエス様を諫めたことを記していません(マタイ16:22、マルコ8:32)。より大事なことに焦点を合わせたかったのではないのでしょうか。人間の姿ではなく、神様を見つめるようにと私たち呼びかけているようです。その内容こそ、次のことです。

3 (23以下2) 大事なことは、イエス様について行くこと。

ルカは23, 24, 25節で、イエス様が次々語られた3つの内容を記しています。色んなことを思い巡らし、考えることができますが、大事なことは「わたしに従いなさい」(23)ということ、イエス・キリストに従うということです。自分を捨てる、自分の十字架を負う、自分の命を救う、失う、全世界を手に入れる、自分自身を滅ぼす(自分の身を滅ぼすの直訳)、それらのことは全て、このイエス・キリストを覚える中で思い巡らさなければズレた思い巡らしで終わります。次の27節こそ、私たちの思い巡らしを中心事に戻してくれる言葉です。

4 (26) 「私は福音を恥としない」(ローマ1:16)を思い出す言葉。

この「恥としない」という独特な表現で思い出すのは、神様が起こされた恵みの出来事(福音)に対する喜びにあふれたパウロの言葉です(ローマの信徒への手紙1章16~17節)。イエス様を信じ、この世の人生もその方の支配の下に生きよ！それが信仰告白した弟子たちに主が力を込めて語られた内容であり、神様が与えて下さった恵みなのです。